



令和5年3月8日

蒲刈中学校だより

発行：呉市立蒲刈中学校
文責：校長 柿林 浩彦

第38号

第20回蒲刈中学校卒業証書授与式 学校長 式辞

暖かな日や肌寒い日が繰り返される「三寒四温」と呼ばれる頃ですが、次第に暖かな日が増え、蒲刈島と下蒲刈島が浮かぶ瀬戸内海は柔らかな日差しのもと、波穏やかな姿を見せてくれています。日に日に春の様相を見せている豊かな自然は、卒業する皆さんの旅立ちを後押しし、新しい門出を祝っているようです。

このよき日に、第20回呉市立蒲刈中学校卒業証書授与式を挙げる事ができますことに感謝申し上げます。そして、多くの保護者の皆様の御臨席を賜り、心から厚くお礼申し上げます。また、お子様の御卒業、誠にありがとうございます。

中学校生活の3年間は本当に早かったと改めて感じられているのではないでしょうか。今年度の卒業生には、人一倍思い入れがあります。それは、下蒲刈中学校と蒲刈中学校が統合して最初の入学生だからです。まさに、卒業生の皆さんは新しい蒲刈中学校の第一期生とも言えます。蒲刈中学校に入学して3年経ち、心も体も立派に成長した姿を見られて、保護者の皆様も感無量のことと思います。そして、中学校生活の3年間にわたり、本校教育にあたたかい御支援を賜りましたことに感謝申し上げます。

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。卒業証書を授与された今の気持ちはどんな気持ちでしょうか。節目となる今日の気持ちを忘れないよう書き留めておいてほしいと思います。

さて、卒業生の皆さんに、2つの言葉を贈りたいと思います。



それは、日本の芸術家である岡本太郎の言葉です。岡本太郎の業績で特に有名なのは、昭和45年に大阪で開催された万国博覧会で太陽の塔という巨大なモニュメントをつくったことが挙げられます。また、「芸術は爆発だ」など沢山の名言を残した有名な芸術家で、テレビなどのメディアに多く出演するなど人気がありました。一見、変わった人に思われがちでしたが、「岡本太郎は金太郎飴みたいだ」とも言われ、どのような状況であっても、とにかくブレない強い信念をもった人物でした。



贈りたい言葉の1つ目は「他人が笑おうが笑うまいが自分で自分の歌を歌えばいい。」です。他人の目、つまり、自分はまわりの人からどう思われているのだろうと必要以上に気にする必要はないということです。大切なことは、たとえ自分がダメだったとしても、それを自分自身で受け入れることです。自分を受け入れることができれば、自分のやることに次第に自信がもてるようになってくるのです。

2つ目は、「相手に伝わらなくてもいいんだと思って純粹さを貫けば、逆にその純粹さは伝わる。」という言葉です。人間ですから、まわりの人が自分の意見に理解を示してくれると嬉しいですが、受け止め方は人それぞれです。しかし、純粹さは熱意になり、その熱意は相手に伝わっていくのです。

これらの言葉は、今の世界にも通用します。ウクライナでは戦争が始まり、1年過ぎました。このように予測できない出来事が起こるなど変化は激しく、その変化のスピードが速い今の世界は、決して楽ではないかもしれません。だからこそ、柔軟に対応しながらも、自分自身をしっかりとって、ポジティブに生きてほしいと思っています。

最後になりますが、今年度の卒業生の皆さんは、私にとって大変忘れられない卒業生9名です。3年間本当によく頑張りました。皆さんとの素晴らしい出会いに感謝し、これからも皆さんをずっと応援します。これらも健康には留意し、元気にポジティブに生きてください。

皆さんの前途が幸(さち)多いことを切に祈り、私の式辞といたします。



令和5年3月8日
呉市立蒲刈中学校長 柿林 浩彦